

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／
武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
【電話】 042-323-4103 【FAX】 042-300-0091
【E-mail】 museum@city.kokubunji.tokyo.jp
【HPアドレス】
http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/1733/009819.html

2014.5
第18号



市重要文化財を新たに指定しました

国分寺市教育委員会は、国分寺市文化財保護審議会（坂詰秀一^{とうしん}会長）から答申を受けた国分寺市重要文化財の新指定4件を平成26年4月1日付けで指定（告示）しました。これにより、市指定重要文化財の総数は29件となりました。本号では、当館で展示公開中の武蔵国分寺跡出土の考古資料2件など、新たに指定された文化財について紹介します。

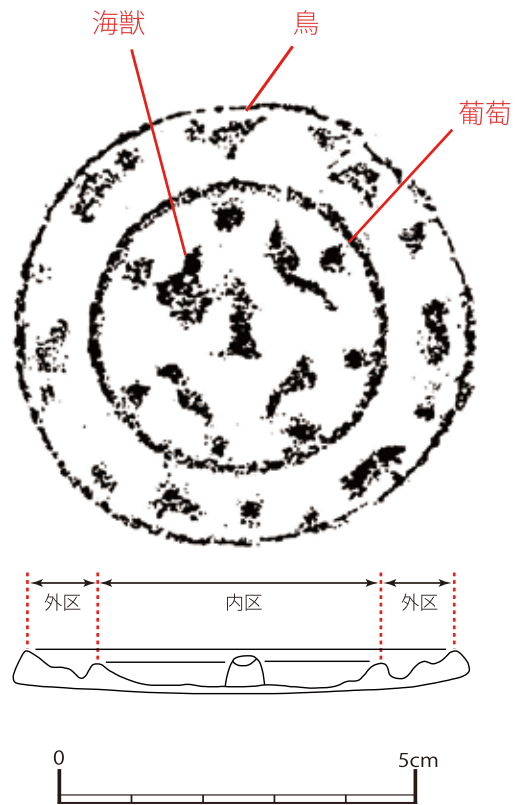
※「本多八幡神社の力石」と「西町五丁目の旧屋敷林」の見学については、当館か、ふるさと文化財課（042-300-0073 平日のみ）にお問い合わせください。

市重要有形文化財（考古資料）

【武蔵国分寺跡出土の小型海獣葡萄鏡 1面】

所在地：西元町一丁目13 武蔵国分寺跡資料館

所有者：国分寺市



鏡背文様（拓本）と断面図（下）

本資料は、昭和52～54年度の調査で、武蔵国分寺寺北方の平安時代後期集落跡から出土した直径6cm弱の小型銅鏡です。

鏡背面の文様は不鮮明ですが、内区には4匹の海獣、内区と外区の境に沿って7個の葡萄の房を置きます。外区には7翼の鳥形が配され、その内に1ないし2個の葡萄の房を計10個置いています。

同じ形をした鏡は、出土品と伝世品を含めてこれまで26面が確認されており、鏡の内区だけを独立させた小型鏡も7面見つかっています。これらの海獣葡萄鏡は奈良時代の遺跡から発見されることが多く、特に海浜や溝など水に関係する祭祀の場で使用される傾向があります。

本資料は、武蔵国分寺に関連する集落跡から出土していること、また鏡は仏教儀礼の中でも使用されることな

どから、武蔵国分寺の宗教行事で使用された後に、何らかの理由で出土地点に持ち込まれたものと推測されます。また鏡は、建物を建てる際に、災いを退けるための鎮壇具として使用されることもあり、武蔵国分寺や集落の建物に関連する可能性もあります。武蔵国分寺跡では、昭和31年の調査で国分寺薬師堂周辺の竅穴住居から白銅製の八花鏡断片1面が出土したのに次ぐ2例目の鏡で、完全な形をした唯一の例であり、古代の信仰の一端を知る上で貴重な考古資料です。

市重要有形文化財（考古資料）

【武蔵国分寺跡出土の金銅製円形飾金具 1枚】

所在地：西元町一丁目 13 武蔵国分寺跡資料館

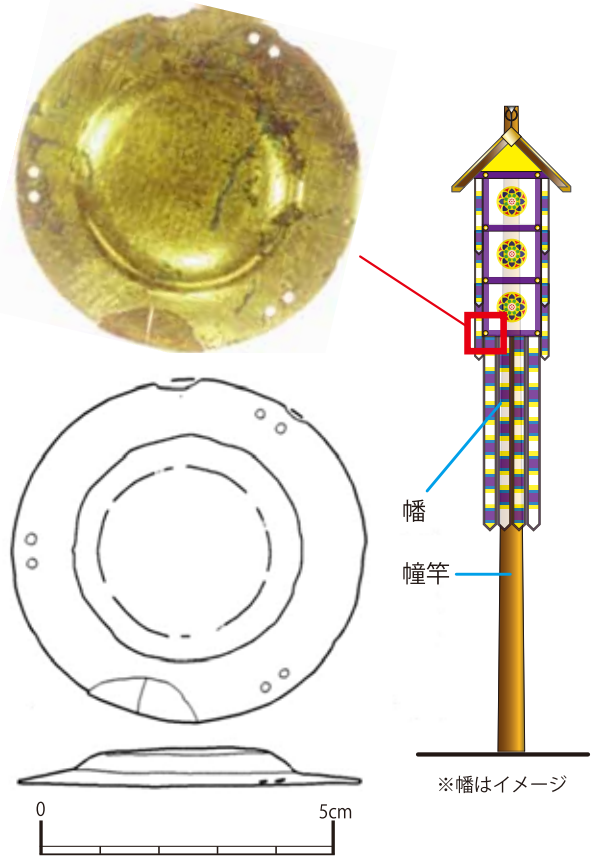
所有者：国分寺市

本資料は、武蔵国分僧寺伽藍地内南西隅における平成3年度の確認調査で、掘立柱建物の柱を建てた際の埋め土の中から出土した金銅製の円形飾金具です。

資料の大きさは直径 6.1 cm、厚み 0.5 cm、重さは 13.1 g で、中央部を凸状に打ち出し、表面のみに鍍金が施され、外形の縁には直径 2.0 mm の小穴が 2 個一対で 3 ヲ所に施されています。

材質、形状、装着用と思われる三対の小穴などは、現存する法隆寺献納宝物中の幡に装着されている飾金具に類似しています。また、本資料が出土した付近では法要などの際に幡を掲げるための幡竿の遺構が検出されており、両者の関係性を伺い知るうえでも貴重な資料です。

武蔵国分僧寺ではどのような幡が掲げられていたのか定かではありませんが、使用された幡の飾金具が出土するのは稀で、貴重な考古資料です。



平面・側面図（下）と幡模式図（右）

市重要天然記念物

【西町五丁目の旧屋敷林】

所在地：西町五丁目 5・6

所有者：池谷昭利氏・東京都・国分寺市

この地は、国分寺崖線沿いにあり、江戸時代の享保年間（1716～1736）に開発された中藤新田農家の旧屋敷地にあたります。崖上の水路敷きには玉川上水から引かれた中藤新田分水の胎内堀が残されています。

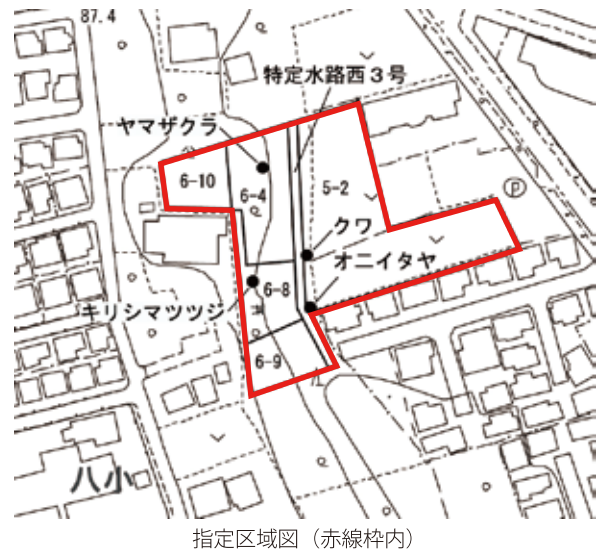
旧屋敷林を象徴する巨樹が樹林地中に 4 本あります。稲荷社の傍らにあるキリシマツツジは、樹高は約 4m、枝張りは東西約 8m あります。樹齢 85 年前後と推定され、低木でこれほどの長寿命のものは珍しく、老樹といえます。

竹林（都有地）にあるヤマザクラは、樹高は約 17m、幹回りは約 2.7m あります。

畑地際にあるクワは、樹高は約 14m、幹回りは約 1.65m あります。桑畑に植栽されていた個体の名残と推測されます。

畑地際のオニイタヤは、幹回りは 1.5m あります。

これらの樹木は武蔵野の雑木林を利用して、人々の暮らしとの関わりで形成された旧屋敷林の姿を残す、すぐれた自然として貴重なものです。



指定区域図（赤線枠内）



文化財指定の様子

市重要有形民俗文化財

【本多八幡神社の力石 1個】

所在地：本多四丁目3 八幡神社

所有者：本多四丁目3 八幡神社

都内では、江戸時代後期から明治時代にかけて、米俵こめだわらや酒樽さかたる・大石などを持ち上げて「力持」を競う会が神社の境内などで盛んに開かれました。力石はその際に用いられた石で、年号・人名・重量などの刻字を加えて優勝者の記念としたものが多く残されています。

この縦48cm、横40cm、高さ34cmほどの河原石の表には「奉納ほうのう 三拾貫目さんじゅうかみめ」、右側には「文久二戌八月十五日」、左側には「當所とうしょ 願主がんしゅ 藤野栄治郎」と刻字があり、藤野栄治郎こと富士野栄次郎（天保9年（1838）～大正10年（1921））が願主となり、江戸時代末の文久2年（1862）に本多新田の鎮守八幡神社へ奉納したもので、重量はおよそ100kgと推定されます。

地元の伝承によれば、栄次郎は本多新田の若者の中で

も一番の力持ちで、この石を持ち上げることができたと伝えられています。

都内には1,200個を超える力石がありますが、多摩地域には30個が確認されているのみです。また、本資料は、神社に奉納された日付、願主名、重量が刻まれている、当時の近村の人々の生活文化の特色を示し、貴重な資料です。



表面全体（左）と刻字部分（拓本）

INFORMATION

Events

平成26年度の国分寺市文化財普及事業の予定は以下の表のとおりです。

月	日(曜日)	行 事	広報予定
4	13日(日)	万葉花まつり ふるさと文化財愛護ボランティアによる武蔵国分寺跡周辺ミニめぐり	4/1号市報
5			
6	8日(日)	国分寺・府中 市制施行周年記念 武蔵國を歩こうスタンプラリー（各市先着150名、事前申込み制）	5/1号市報
7~9のいずれか	未定	●古代瓦作り体験教室（定員45名、事前申込み制）	
7	5日(土)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座（定員20名、事前申込み制）（全9回）①	6/15号市報
	19日(土)	●国分寺市制施行50周年記念事業 特別展示事業—国分寺市の今昔—（前期・近現代～近世）（10月5日まで）	7/1号市報
	26日(土)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座②	
8	23日(土)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座③	
9			
10	1日(水)	東京文化財ウィーク2014 企画事業（11月30日（日）まで）	9/15号市報
	5日(日)	●国分寺市制施行50周年記念事業 特別展示事業—国分寺市の今昔—（前期・近現代～近世） 最終日	
	10日(金)	●国分寺市制施行50周年記念事業 特別展示事業—国分寺市の今昔—（後期・中世～原始）（平成27年3月1日まで）	9/15号市報
	18日(土)	●おたかの道湧水園無料公開（おたかの道湧水園開園記念日）	10/1号市報
	25日(土)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座④	
11	1日(土)	●おたかの道湧水園無料公開（市制施行50周年記念）	10/15号市報
	2日(日)	国分寺まつり ●おたかの道湧水園無料公開（市制施行50周年記念）	10/15号市報
	2日(日)	教育7DAYS（11月8日まで）	
	3日(月)	国分寺市制施行50周年記念式典 ●おたかの道湧水園無料公開（市制施行50周年記念）	10/15号市報
	未定	●おたかの道湧水園内歴史的建造物（日本多家住宅長屋門・日本多家住宅倉）保存修理工事現場説明会	
	15日(土)	●国分寺市制施行50周年記念事業 文化財ウォークラリー事業	
	22日(土)	ふんぶんウォーク（11月24日まで）（予定）	
	29日(土)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑤	
12	13日(土)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑥	
1	17日(土)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑦	
	下旬	●文化財防火デー（1月26日前後にあわせて、国分寺消防署・国分寺市消防団・ふるさと文化財課その他による消防訓練実施）	1/15号市報
2	15日(日)	●国分寺市制施行50周年記念事業 歴史文化フォーラム事業～平安時代における祈りの空間 武蔵国分寺～（仮題） ○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑧	
	上旬	多摩郷土誌フェア	
	21日(土)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑨	
3	1日(日)	●国分寺市制施行50周年記念事業 特別展示事業—国分寺市の今昔—（後期・中世～原始） 最終日	

※記号説明：●→ふるさと文化財課主催・共催事業、○→ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座、無印→ふるさと文化財課関連行事

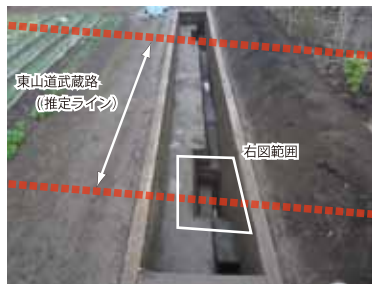
※内容、日程は変更することがあります。

調査場所は、武蔵国分寺跡の僧尼寺の中間にあたり、東山道武蔵路が南北に通ると推定される地点です。本地点における東山道武蔵路は、古代の官道であるとともに、僧寺寺院地西辺の区画の機能を有していたと考えられています。また、国分寺崖線の下という特徴的な立地にあたるため、この地域における東山道武蔵路の位置・規模・構造等を確認し、遺跡の情報を蓄積する目的で遺構の確認調査を実施しました。

調査の結果、何層もの硬質土層と複数の掘り込みが検出され、中でも大きな溝状の掘り込みが2カ所（幅約2m、深さ約1.2m）、現在推定される東山道武蔵路の両側溝の延長線上で確認されました。しかし、溝の規模や硬質土層のあり方は、市内で検出される一般的な東山道武蔵路とは異なった状況を示します。

このため、今回検出された遺構が、東山道武蔵路の変遷の中で、どの時期にあたり、どのような機能を果たしていたのか、本遺構の性格について今後とも調査研究を進めていきます。

最後になりましたが、本調査は、地権者様の御理解と御協力なくしては実現し得なかったものです。改めて感謝の意を表します。



調査区全景（西から）



調査区西側で検出された溝跡（北から）

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

※駐車場はありません

【電車】◎JR国分寺駅下車／徒歩約20分 ◎JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】◎国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉町ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分
◎国分寺駅南口より「京王バス」系統番号く寺83・く寺85乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時（入館は午後4時45分まで）

■休館日

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は直後の平日）
年末年始（12月29日から1月3日まで）
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。（入園券は史跡の駅で販売）
一般……………100円（年間バスポート1,000円）
中学生以下……無料

【入園料の減免規則があります】

- (1) 学校の教育活動で生徒（中学生を除く）、学生及び引率の教職員が入園するとき（事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。）
 - (2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
 - (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

モバイルホームページQRコード